

地域連携事業報告書



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism



兵庫県公立大学法人

地域リサーチ&イノベーションセンター



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

目次

RICプロジェクト（地域連携事業）

No.	連携先	事業名	頁
1	但馬 3 市 2 町	高校コミュニケーションワークショップ事業	1
2	豊岡市	豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業	2
3	豊岡市	豊岡市多文化共生推進事業実施事業 ： 母語・継承語支援の調査研究と実践へ外国にルーツを持つ子どもの支援	3
4	豊岡市	出石歴史資料館等活用推進事業	4
5	豊岡市	豊岡市中学校教育研究会等支援事業	5
6	豊岡市	豊岡市立八代小学校での連続演劇ワークショップ（「創作」の授業）	6
7	豊岡市	豊岡市社会福祉課 子どもの居場所づくりのための意識調査事業	7
8	養父市	養父市「わすれなぐさ」再演事業	8
9	養父市	養父市子ども向け職業体験事業	9
10	養父市	養父市明延地区活性化事業	10
11	朝来市	あさご芸術の森美術館 風と光のページェント支援事業	11
12	朝来市	あさご芸術の森美術館 アートプログラム支援事業	12
13	朝来市	朝来市観光まちづくり支援事業	13
14	香美町	香美町地域連携事業 観光コンテンツの音声データ化事業	14
15	香美町	香美町地域連携事業 日本語教室ボランティア育成事業	15
16	新温泉町	新温泉町観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業	16
17	新温泉町	諸寄地区における観光産業活性化事業実施事業	17
18	新温泉町	新温泉町民バス政策検討事業	18
19	但馬広域行政事務組合	令和 6 年度但馬広域行政事務組合職員研修 （政策づくり研修 ―基礎編―）	19
20	兵庫県但馬県民局	ひょうごフィールドバビリオン地域内連携の強化と情報発信事業	20
21	兵庫県但馬県民局	行政・商工団体担当者向け 事業承継セミナー	21
22	兵庫県但馬県民局	起業スタートアップ支援事業	21
23	伊丹市立伊丹高等学校	伊丹高校表現活動探求に係る講演実施事業	22
24	京丹後市立峰山中学校	峰山中学校『心を広げるコミュニケーション講座』実施事業	23
25	兵庫県立総合教育センター	演劇で学ぶコミュニケーション能力養成講座実施事業	24
26	但馬観光協議会	但馬観光協議会と芸術文化観光専門職大学との連携事業	25
27	公益社団法人ひょうご観光本部	兵庫県の高校生対象 観光・まちづくりセミナー	26
28	豊岡市商工会	道の駅神鍋高原イベントスペースの利活用方法の検討事業	27
29	淡路市商工会	道の駅“東浦ターミナルパーク”活性化事業に係る調査等事業	28
30	近畿大学附属豊岡中学校	近畿大学附属豊岡中学校コミュニケーションワークショップ実施事業	29
31	青翔開智中学校	青翔開智中学校コミュニケーションワークショップ実施事業	30

32	(公財)太平洋人材交流センター	JICA 発展途上国向け訪日研修における協力事業	31
33	(株)ケイミックスパブリックビジネス (春日市ふれあい文化センター)	ふれぶんアートマネジメント講座 2024 地域に根差したアートマネージャーを目指して	32
34	豊岡市工業会	豊岡市工業会 PR 動画作成	33
35	(公財)佐世保地域文化事業財団	アルカス SASEBO アートマネジメント研修会 アートでつながる・ひろがる・しあわせの WA !	34

CAT 地域貢献事業（自主事業）

No.	実施主体	事業名	頁
1	地域リサーチ&イノベーションセンター	市民公開講座 リカレント講座「但馬ストークアカデミー」	35
2	地域リサーチ&イノベーションセンター	市民公開講座「CAT 教養講座」	36
3	学術情報センター	シリーズ「パフォーミング・ライブラリー」	37
4	実習支援センター	CAT 舞台芸術実習公演 Performing Arts Project (PAP) vol.5	38

・行政・団体・企業等との連携協定	39
・地域リサーチ&イノベーションセンターについて	40

◆テーマ RICプロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ事業」

◆メンバー

(本学教員) ☆講師 石井 路子、☆助教 田上 豊、☆講師 平田 知之、
☆講師 山内 健司、☆講師 姚 瑤

(非常勤講師) 井上 三奈子、鐘築 夏海、酒井 美佳、島田 曜蔵、高橋 智子、
永田 莉子、平田 香奈、☆福田 倫子、☆村井 まどか、森岡 望
(50 音順、☆は主講師)

◆キーワード コミュニケーション教育 演劇的手法 但馬 3 市 2 町 高校

◆概要

但馬地域の高校生が持つ潜在的コミュニケーション能力を引き出すため、演劇的手法を用いたプログラムを展開する。具体的には「自己効力感（自分の表現が受容され、何かを変えることができる経験）を増やす」、「自己検閲（自分の表現が受け入れられないのなら黙ってしようという意識）を減らす」ということを目的とした。本事業において、参加者は互いの違いを尊重しながら、チームで意見をすり合わせて、正解のない想定外の課題を創造的に解決する力を養う。



◆事業内容（プログラムの流れ）

1. アイスブレイク（導入）→安心して発言・活動できる場づくり、参加者の特性の把握
2. メインコンテンツ（展開）→正解のない想定外の課題への取り組み、小集団でのディスカッション
3. リフレクション（振り返り）→発表・全体共有、結果ではなく過程を省察

◆事業成果

但馬 3 市 2 町の公私立高等学校・高等専修学校・特別支援学校 20 校において実施することにより、但馬地域のいずれの高校に進学した場合であっても、コミュニケーション教育を受けることができる環境が整っており、エリアとしてのシームレスなコミュニケーション能力向上に貢献した。



◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業」**

◆研究者 **准教授 高橋 伸佳**

◆キーワード **ヘルスケア、ウェルビーイング、スポーツ、アウトドア、新しいライフスタイル**

TOYOOKA

◆概要

コロナ禍で生まれた価値観（健康志向、環境への配慮、自然志向）に対応した、リピーター、周遊・回遊、滞在につながる新たな大交流の仕組み・観光プログラムを開発するもの。新規市場開拓のため、観光資源のコンテキスト転換を図り、拡大期にあるアウトドア、健康市場からの需要を取り込む施策に寄与するものとし、2022年度に立ち上げた「ネオカル TOYOOKA」ブランドの確立に挑戦している。

◆事業内容

1. 新規プログラムの開発及びプログラムの質の向上
地域住民との交流（体験会）の準備と実施
2. 既存プログラムの販売促進支援
 - (1) 健康機能の調査・効果検証による各プログラムの付加価値化
 - (2) 芸術文化観光専門職大学の学生によるネオカル TOYOOKAプログラムのプロモーション
 - (3) 「ネオカル TOYOOKA」WEB サイトの改修および PR 広告の実施による WEB サイトへの訪問促進

◆成果

1. 地域住民との交流（体験会）と効果検証
 - (1) 食育アドベンチャーランド2024（2024年8月18日@豊岡市総合体育館）
 - (2) とよおかスポーツフェスティバル2024（2024年10月14日@ウェルネストーク豊岡、および周辺）
 - (3) 企業交流リレーマラソン in 神鍋高原2024（2024年10月24日@全但バス但馬ドーム）
2. ネオカル TOYOOKA プログラムの健康科学的エビデンス調査を実施、学術的意味合いを付与
3. 学生の SNS プロモーションとネオカル「ネオカル TOYOOKA サイト」の連動によるパフォーマンス向上
WEB サイト経由の申込件数 15 件、予約件数 10 件の実績達成



図 1 食育アドベンチャーランドの様子



図 2 企業交流リレーマラソンの様子

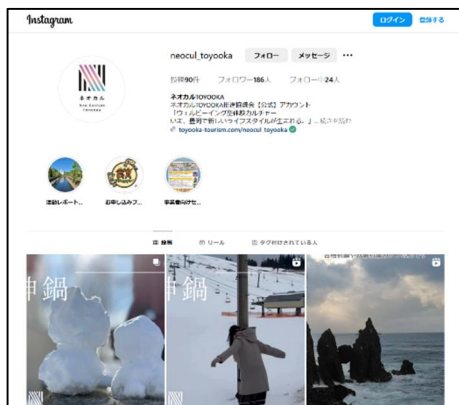


図3 SNS と連動を果たした WEB サイト

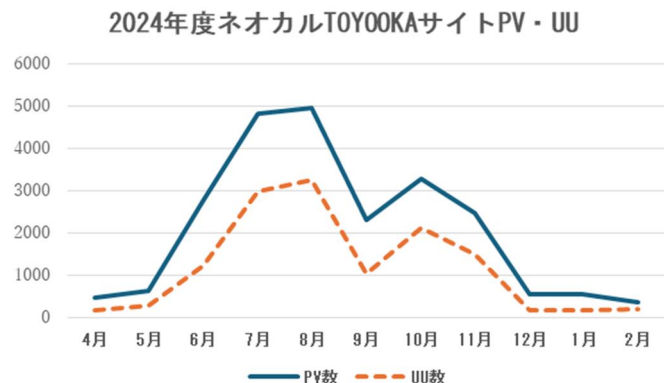


図4 ネオカル TOYOOKA サイト PV 数・UU 数の推移

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市多文化共生推進事業実施事業**

TOYOOKA

：母語・継承語支援の調査研究と実践～外国にルーツを持つ子どもの支援」

◆研究者 講師 姚 瑶

◆キーワード 多文化共生、母語継承語、アイデンティティ、外国にルーツを持つ子ども

◆概要

近年、豊岡市の外国人市民(外国人住民及び外国にルーツを持つ人)は増加傾向にある。「多様性を受け入れ、支え合うバブルなまちづくり」を推進するため、外国にルーツを持つ子どもを対象に母語・継承語(親の母語)、母文化を学ぶ機会を提供し、自己のアイデンティティの確立を促すとともに、お互いの文化や生活習慣の違いを尊重できる人材を育成する。

◆事業内容

中国にルーツを持つ子どもを対象に認知能力・非認知能力を育てる中国語母語教室を実施

◆成果

- ① 認知能力・非認知能力を育てる中国語母語教室（合計21回実施）
- ② 中国語演劇を上演（2025年2月23日）

事業実施

参加者数 のべ 557 人



写真1 中国語母語教室授業風景



写真2 セリフ稽古



写真3 サイコロで数字の練習



写真4 中国語演劇発表会①



写真5 中国語演劇発表会②



写真6 出演者・関係者集合写真

◆テーマ **RICプロジェクト「出石歴史資料館等活用推進事業」**◆研究者 **准教授 藤本 悠**◆キーワード **地域活性化、観光誘致、地域資源活用、文化財、デジタル技術**

◆概要

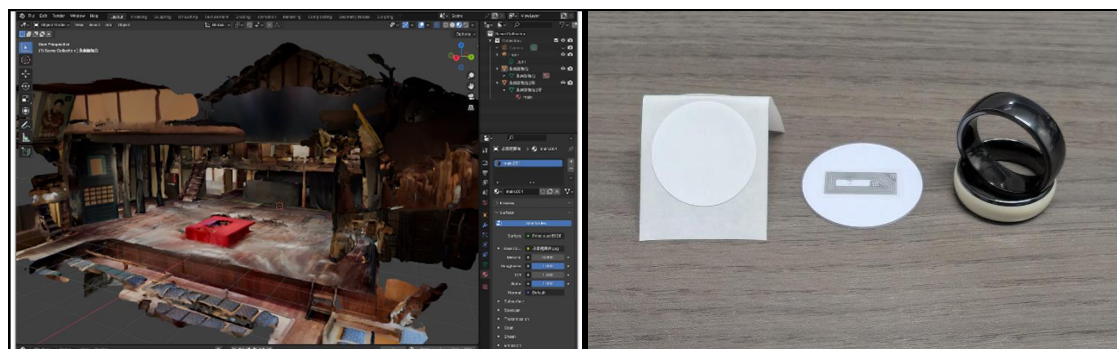
本プロジェクトでは出石歴史資料館等（史料館、明治館、家老屋敷、加藤弘之生家、永楽館）の活用促進に関する具体的な施策の検討を行い、条例改正に向けての提言を行ったほか、経営方針を交えて具体的な改善案として、各館の特色を生かしたベースコンセプトを提案した。また、デジタル技術を活用したメタバースを活用した観光 PR の方法や、生成 AI を利用した音声ガイド・コンテンツの可能性について指定管理者らと意見交換を行い、永楽館では兵庫県デジタル戦略課の協力を得て、3D 計測会を実施した。構築した 3D スキャンデータは今後のメタバース構築に使用する予定である。

◆事業内容

実施日	事業内容	場所
7 月 5 日	出石振興局との打ち合わせ	専門職大学
9 月 10 日	出石歴史資料館等活用推進に関する提案	専門職大学
12 月 9 日	指定管理者への報告と事後ヒアリング(出石史料館)	旧城下町
12 月 10 日	指定管理者への報告と事後ヒアリング(永楽館・明治館)	旧城下町
12 月 17 日	指定管理者への報告と事後ヒアリング(家老屋敷)	旧城下町
2 月 19 日	永楽館での三次元計測会の実施(協力: 兵庫県デジタル戦略課)	旧城下町
3 月 8 日	学術情報館主催イベントにて成果の一部を報告	豊岡市立図書館

◆成果

1. R5 年度の調査を踏まえた具体的な提案と条例改正によって文化施設の活用の幅を広げた。
2. 出石歴史資料館等 5 館の特色を踏まえた、各館の基本コンセプト明確化した。
3. 出石振興局の経営方針に合わせて観光だけでなく地域との調和の必要性を明確化した。
4. 最新のデジタル技術を用いた観光誘致の方法やガイド不足の問題を解決する方法を提示した。
5. 兵庫県デジタル戦略課の協力を得て、地域住民と一緒に永楽館の 3D スキャン会を実施した。



永楽館の 3D スキャン・モデル

音声ガイドの再生トリガーとしての NFC

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市中学校教育研究会等支援事業」**

◆研究者 講師 平田 知之

◆キーワード 小中高大連携、コミュニケーション、グループワーク、主体的・対話的で深い学び、学習指導や教育計画の改善につながる評価

◆概要

授業を核にした研究を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、教員の授業力の向上に資するとともに、豊岡市中学校教育の推進に寄与する。

◆事業内容

実施日程と会場・実施内容（○数字は通算回数）

(1) 豊岡市中学校教育研修会国語部会南ブロック研修会

- ① 第1回目 5月27日（月） 15：00～16：30 豊岡市立豊岡南中学校
下記⑥での研究授業の指導案・提案資料の検討会で助言をした。
- ② 第2回目 6月18日（火） 15：00～16：30 豊岡市立豊岡南中学校
前回の研修を踏まえ修正された指導案・資料を再度検討し、助言をした。

(2) 豊岡市中学校教育研修会国語部会北ブロック研修会

- ③ 第1回目 8月20日（火） 15：00～16：30 豊岡市立港中学校
授業における話し合いの意義と方法についてグループワークとレクチャーをした。
- ④ 第2回目 10月29日（火） 15：00～16：30 豊岡市立港中学校
下記⑤の研究授業の指導案およびそれに基づくグループディスカッションに対して助言をした。

(3) 豊岡市中学校教育研修会国語部会南北ブロック合同研修会

- ⑤ 11月11日（月） 13：30～16：00 豊岡市立港中学校
公開授業（3年 文章に残る芭蕉の思いを探る「夏草 ―『おくのほそ道』」）参観 後、
研究協議会で助言をした。

(4) 第64回兵庫県中学校国語教育研究大会

- ⑥ 11月22日（金） 12：30～14：30 神戸市総合教育センター
第2分科会（書くこと）について、但馬地区担当の研究授業（随筆を書こう）の録画視聴とそれを踏まえた分科会のディスカッションに対して助言をした。



レクチャーの様子

◆テーマ RICプロジェクト

「豊岡市立八代小学校での連続演劇ワークショップ（「創作」の授業）」

◆研究者 講師 石井 路子、助教 小島 寛大

◆キーワード 演劇ワークショップ、表現教育、プログラム評価、小規模特認校

◆概要

豊岡市初の小規模特認校である豊岡市立八代小学校において本学の講師が演劇ワークショップ（授業名「創作」）を実施。同校の特色ある教育づくりを行う事業は2年目となる。昨年度と同様に全校児童（20名）を対象に半年間に全10回のワークショップを実施し、パフォーマンスを創作・発表した。

◆事業内容

1. 演劇ワークショップ（講師：石井路子）の前半は身体を使った表現活動に、後半は地域や学校生活を題材にパフォーマンスの創作に取り組んだ。最終回で「マップ・オブ・やしろ」という約15分のパフォーマンスを地域住民や保護者に披露した。大学生6名がアシスタントとして参加した。
2. プログラム評価では、児童・教員・保護者を対象としたアンケートや、事業終了後のグループインタビューを通して、ワークショップの意義や成果を検証した。

◆成果

1. 身体表現のワークショップを通して、児童全員が身体表現やダンスなどさまざまな活動に取り組み、学年を越えた協働や小学校の他の授業にはない活動を行う機会となった。多くの児童から「体を動かす楽しさを知った」、「コミュニケーションのコツがわかった」、「運動が得意になった」などのコメントが見られた。
2. 全校児童が参加し、オリジナルのパフォーマンス「マップ・オブ・やしろ」を完成させた。体育館の半面を八代地区に見立て、児童と地域住民が住んでいる場所に座り八代地区の地図を作るという演出や、ダンスの途中で児童がハイタッチで観客と交流するシーンは来場者から大変好評で、児童と地域とのつながりを再確認する機会となった。
3. アンケートやインタビューからは、児童は楽しさや達成感を感じており、保護者や教員からも継続を望む声が多い。特に、自由で自然な自己表現の機会が得られたことが高く評価され、既存の活動（和太鼓や一輪車）とは異なる新たな学びの機会を小学校にもたらした。



ワークショップの様子



パフォーマンス「マップ・オブ・やしろ」

◆テーマ RICプロジェクト

「豊岡市社会福祉課 子どもの居場所づくりのための意識調査事業」

TOYOOKA

◆研究者 助教 小島 寛大

◆キーワード 発達支援、子どもの居場所、ダンスワークショップ、親子のコミュニケーション、心理的安全性

◆概要

本学と豊岡市社会福祉課、地域の専門家が連携し、発達に特性のある子どもを対象とするコンテンポラリーダンスのワークショップと、保護者を対象とした親子のコミュニケーションをテーマにした講座を開催した。「きもちのミカタ」というプロジェクト名で同時開催した。プログラム参加者の心理的・社会的変化を調査すると共に、今後の豊岡市内における子どもの居場所づくりや発達支援のあり方を検討することを目的としている。

◆事業内容

1. こどものためのダンスワークショップ「でこぼこにおどろう！」（小学生対象）とおとなのための「子育て応援講座」（保護者対象）の2本立てで全5回実施し、親子での参加を基本とした（保護者のみの参加も可）。
2. ダンスワークショップでは、子ども自身の動きやアイデアを尊重しながら短いパフォーマンスを創作し、保護者に発表した。セーフティーゾーンの設置やスタッフバッジの着用など心理的安全性にも配慮がなされた。
3. 子育て応援講座では、発達支援の専門家が子どもの特性理解や親子関係の改善をテーマにレクチャーを行った。また講座中に子どもたちのパフォーマンスの発表を見学し、感想を共有する時間も設けた。

◆成果

1. 全体で延べ35名の小学生と45名の保護者が参加し、半数以上が発達支援を必要とする子どもであった。アンケート結果では、参加児童の多くが「またやりたい」と答え、実際に継続や複数回の参加も見られた。保護者からは「子どもとの関わり方を見直す機会になった」など肯定的な声が多く寄せられ、ダンスワークショップと講座の2本立てにより親子双方にとって価値ある時間となった。
2. 本プログラムに参加した子どもや保護者に起こる変化の仮説（ロジックモデル）を作成した。また、多様な子どもの居場所づくりにおいて重要な点として、①子ども一人一人のペースを尊重し、安心して過ごせる環境と活動の選択肢を用意すること、②大人は子どもの挑戦や失敗を受け入れ、成功体験を支援する関わりが求められること、③その機会として正解のないアート活動、特に自由な身体表現を重視するコンテンポラリーダンスが有効であること、④子どもの個性を親が再認識する機会を設けることの4点を抽出した。



コンテンポラリーダンスのワークショップの様子



チラシを豊岡市の公立小学校全校で配布

◆テーマ **RICプロジェクト「養父市「わすれなぐさ」再演事業」**

◆研究者 助教 田上 豊、准教授 杉山 至

◆キーワード 地域資源、演劇、創作、上演

◆概要

令和4年度に養父市と本学の連携事業として実施した「名草神社保存修理工事完成記念イベント事業」で制作した演劇作品「わすれなぐさ」を、同市内文化施設やぶ市民交流広場(YBファブ)で再演する。2年前に修理を終えた神社の歴史に関する演劇を上演することで、市民をはじめ多くの人にその魅力を伝えるきっかけとする。

◆事業内容

- 演劇作品の製作・上演
 - 再演にかかる脚本の見直し
 - 舞台美術の制作
 - 照明、音響、映像プランの検討

◆成果

今回の再演は、初演時の創作ノウハウを引き継ぎつつ、演出や脚本のブラッシュアップにより、作品の完成度をさらに高めることができた。また、地域への文化的貢献や教育的効果を高めるという目的も達成した。本事業で得られたノウハウや経験は研究ノートにまとめられ、学内の紀要として提出された。今後も地域資源を活用した作品制作や文化活動を通じて、地域社会との連携を強化していくことが期待される。

◆公演の様子



◆テーマ RICプロジェクト「養父市子ども向け職業体験事業」

◆研究者 准教授 瓶内 栄作

◆キーワード 職業体験、Uターン

◆概要

高校卒業後の進路が地元での就職または市外高等教育機関への進学と限られている養父市の子どもたちに対して、将来選択のための本格的な体験活動を提供することで、養父市の魅力を再発見してもらう。小さいころに養父市での社会人生活を検討してもらうことで、将来の職業選択において養父市での就業を考えるきっかけを作る。

◆事業内容

おしごとワークショップとして、養父市内企業の紹介、職業体験と関連する講義の実施をした。

講 師：有限会社オグラ 代表取締役社長 金川 恭平 氏、同社従業員（3名）

芸術文化観光専門職大学 准教授 瓶内 栄作

実施内容：鞆製品ができるまでの講義や、ペンケースの製造体験、マーケティングや価格設定についての講義を行う。

開催校	開催日時	参加人数
養父小学校	2025年1月28日 13:45～15:20	27人（5年生、6年生）
伊佐小学校	2025年2月18日 13:40～15:15	28人（5年生、6年生）

◆成果

本事業については、3つの効果（①職業についての理解が深まる、②養父市の企業についての認知が高まる、③製作物を通じて体験が残る）を想定しており、それぞれを達成した。就職に効果を発揮するためには10年程度を要するため、明確な効果を測定できないが、長期的に残る体験を提供できた。

生徒のコメントから得た感想（一部）

A)「難しいけれど楽しい」ワークショップ

多くの児童が「難しかったけど、楽しかった」「またやりたい」と述べており、工業用ミシンや裁断など初めての作業に苦労しつつも、全体としては充実した時間になったようである。

B)複数の工程が合わさって完成する実感

「A, B, Cどれもがいないとふでばこはかんせいしないんだと初めてしれた」「やることを分担すると効率的でとてもいい」など、分業や協力の重要性、そして多くの工程が組み合わさって製品ができることを実感した児童が多かった。

図．体験の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「養父市明延地区活性化事業」**

◆研究者 講師 石井 路子

◆キーワード アート+観光、地域活性化、日本遺産

◆概要

本学の教員・学生が地元住民と連携し、養父市大屋町明延地区（明延鉱山付近）の魅力向上・活性化に取り組む。例年 10 月に開催される「あけのべー円電車まつり」に向けて、地域の現状と課題を調査し、地域に合ったイベントや仕組みづくりを実施し、地域の活性化及びイベント来場者の増加、満足度向上を図る。

◆事業内容

明延地区では、食に関するコンテンツが少ないことが課題であった。調査の過程で、綺麗な山水と豊かな自然の中で育まれる美味しい野菜が自慢であること、区民が趣味で行っているドラム缶窯で焼き上げるピザが美味しいことが挙げられ、地産地消の要素を持つ、明延地区でしか食べることのできないピザの開発及びその持続的な運営の仕組みづくりを実施した。プロジェクト名は、一元電車になぞらえて「PoppoPizza」とした。

「PoppoPizza」には、「食」の要素だけでなく、手作りのドラム缶で焼き上げ、自然のなかで一元電車を眺めながら食べる「ビジュアル」の要素、生地を捏ねるところも含めた「手作り体験」の要素、1つの新たなコンテンツとして、Instagram 等 SNS を通じた「情報発信」の要素を持たせた。

あけのべー円電車まつり当日には、フラッシュモブ、楽隊による空間演出、フリースペースを設けてチョークアートを実施した。まつり参加者向けのアンケート調査では、参加理由として「大学が関わっていて面白そう」との回答が約 11%あり、本学が関わったことで集客に一定の効果があったといえる。

◆成果

- ・あけのべー円電車まつりでのアートコンテンツ展開（フラッシュモブ、楽隊による空間演出、チョークアート）
- ・「PoppoPizza」の運営支援及び SNS を活用した広報支援

◆事業実施

令和 6 年 10 月 6 日(日) あけのべー円電車まつり、5 月～9 月の一元電車定期運行日

◆事業の様子



◆テーマ RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館 風と光のページェント支援事業」

◆研究者 准教授 杉山 至

◆キーワード 舞台美術、制作

◆概要

この事業は本年で3年目となる。初年度から関わった学生が卒業するという節目でもあり、例年のキャンドルイベントのエリアデザインに加え、今年度は大学からの提案の企画を持ち込み、体験型イベント、ワークショップ等を盛り込み、トータルな形で企画デザインに関わった。

◆事業内容

全体の企画には共通のコンセプト「記憶の川」を掲げた。これは参加した学生との現地リサーチから作りだした。美術館やアートが地域との関わりで果たせる役割やそれが観光ともつながる接点を作り出せるという、本学のミッションでもある芸術文化と観光の架橋もこのコンセプトに入れ込んだ。

以下は実際に行った企画。

1. ワークショップ企画「キャンドルグラス デコレーション♡」
2. スタンプラリー「記憶の川に棲む〇〇を探せ！」
3. イベント当日の観客参加型ダンスパフォーマンス（キャンドルナイトパレード）
「妖精と記憶の川をたどる冒険にでかけよう！」
4. キャンドルイベントのエリアデザインとオブジェ製作
（3つのメインオブジェ「七色の橋」「光のトンネル」「船のオブジェ」）

鑑賞者がよりインタラクティブに参加することを狙った。またイベント参加者に街や地域の記憶や魅力にも興味をもってもらうことを目指した。

◆成果

一つのコンセプトのもと有機的につながる形での作品作りを行なった結果、とても完成度の高い企画となり、イベントを通してのあさご芸術の森美術館の価値の向上及び観光と結びついた芸術文化意識の醸成につながっている。



◆テーマ RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館 アートプログラム支援事業」

◆研究者 助教 小島 寛大

◆キーワード 美術館、学校連携、鑑賞教育、アートワークショップ、写真

◆概要

あさご芸術の森美術館と芸術文化観光専門職大学が連携し、小学生を対象にした美術館におけるアートプログラムを企画・試行した。既存の来館者層に加えて、新規（特にこども）の来館促進と、次年度以降の継続的展開を目指し、ニーズ調査・企画立案・プログラム試行の3段階で進められた。

◆事業内容

1. ニーズ調査

市内小中学生と保護者へのアンケート調査、小中学校の教員、学童クラブや子育て学習センター職員に聞き取り調査を実施。子どもの文化・芸術体験は各施設で工夫されているが、人手不足や高齢化により継続が困難となっている。朝来市ではこうした体験への保護者の関心も高く、美術館による「出張型」「来館型」双方のプログラムに期待が寄せられていることが明らかになった。

2. 企画立案

ニーズ調査の結果を踏まえ、小学生が学校の行事としてクラス単位で美術館を訪問して実施できるプログラムを企画した。美術館職員、本学の学生5名を交えて「アイデアスケッチ」という手法を用いたワークショップを実施し、教室や家庭では難しい創作・鑑賞体験につながり、且つ毎年継続できるプログラムを検討した。

3. プログラム試行

調査とワークショップを経て立案した「美術館たんけん隊 おもしろいもの、みつけた！」を朝来市立枚田小学校6年生にご協力いただいて実施した。子どもたちが美術館内で自由に写真を撮影し、撮影した写真から全員が1点ずつ選び作品として展示。後日、美術館において展覧会を開催し、のべ129名が来場した。

◆成果

1. 参加児童の約95%が満足と回答し、鑑賞や創作に対しとても積極的な取り組みが見られた。初めて来館した児童が4割であり、展覧会には保護者等も多く来館し、美術館の新規来館に繋がった。
2. 美術館の既存作品を活用し、低予算で継続して実施可能なプログラムが構築できた。小学校・大学・美術館の明確な役割分担で実施負荷を軽減した。



美術館の彫刻作品を自由に撮影する児童



児童作品の展覧会の会場風景

◆テーマ RICプロジェクト「朝来市観光まちづくり支援事業」

◆研究者 准教授 池田 千恵子

◆キーワード アルベルゴ・ディフーズ・古民家再生・移住支援・SNS 活用・まち歩き

◆概要

第3次朝来市観光基本計画で示されている「周遊型・まちなか観光の誘客推進」に向けた調査ならびに運営体制を検討する。梁瀬地区の昭和レトロな雰囲気を活かす、アルベルゴ・ディフーズ（分散型宿泊施設）による観光まちづくりに向けて調査を行い、提言する。

◆事業内容

「周遊型・まちなか観光の誘客推進」の実現に向けて、下記の調査を実施。

- 1) 空き家や空き店舗の活用について
朝来市内の事業者6名と朝来市市民協働課への取材を実施。
- 2) 新規事業者の流入について
空き家や空き店舗を活用して新規事業者（移住者）を増やすために、移住者して本屋を営む夫妻から梁瀬地区の魅力、Caféや宿泊需要について取材を実施（図1）。
また、市民協働課、経済振興課より移住施策や起業支援策に関する取材を実施。
- 3) 二次交通の活用について
周遊型観光の実現に向けた二次交通に関して、都市政策課に取材を実施。
また、ディスティネーション実習と連動して、学生による検証を実施。
- 4) 広報について
SNSでの広報を充実させるために、池田ゼミにて調査後（図2）、TikTokを作成。朝来市と朝来市観光協会の担当者にプレゼンを実施（図3）。
学生2名を担当者とし、学生による1年間の広報活動を提言。
- 5) 先進地事例の調査
岡山県真庭市、長野県茅野市にて調査を実施。
茅野市においては、一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構にて、古民家再生宿、インバウンド宿泊客対応、体験プログラムに関する調査を実施。
- 6) その他
「あさご地域創出協議会」に参加し、インバウンドのターゲット、TTIとの連携、モニターツアーの造成方法、古民家再利用における宿泊施設の運営について提言。
ひょうご観光本部とインバウンドのターゲット国に関する意見交換を実施。

◆成果

1. 梁瀬地区のアルベルゴ・ディフーズの実装に向けた新規事業者、空き家解消方法などを提言
2. 古民家再利用による宿泊施設運営における運用方法ならびに検討事項の提言
3. 学生による梁瀬地区の魅力評価とプロモーション（Instagram）の提案
4. あさご地域魅力創出協議会参加によるインバウンド施策ならびにツアーへの提言
5. 上記1～4をまとめた報告書（60頁）を作成



図1 梁瀬地区での取材



図2 梁瀬地区魅力調査



図3 SNSの意見交換会

◆テーマ RICプロジェクト「香美町地域連携事業 観光コンテンツの音声データ化事業」

KAMI

◆研究者 准教授 藤本 悠

◆キーワード 地域活性化、指定管理施設、観光誘致、地域資源、音の AR、Locatone

◆概要

本プロジェクトでは、ソニー株式会社が展開する「音の AR」サービス、Locatone を用いた観光コンテンツの音声データ化に関する調査と研究開発を行った。この事業では、生成 AI を駆使し、行政がこれまでに刊行してきた町誌や文化財リスト、報告書等からオリジナルの物語を生成し、音声読み上げ AI の「音読さん」を使って観光コンテンツの制作技術の開発を行った。Locatone を用いることで、音声ガイド不足の問題が解消できるほか、鉄道や路線バスを観光列車、観光バスとして活用することも可能であるため、公共交通の利用促進にも役立てることができると期待している。また、本事業を通じて確立した手法は、観光のみならず、防災や郷土教育といった住民向けサービスへの転用できる可能性も見えてきた。

◆事業内容（開発等は除く）

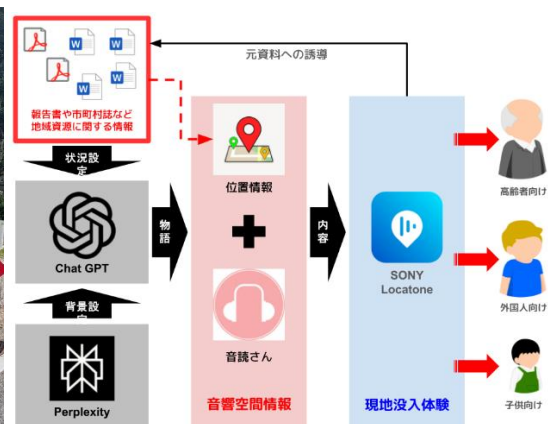
実施日	事業内容	場所
6 月 18 日	海上 Locatone コンテンツの事前調査	香住港～今子浦
7 月 26 日	Locatone コンテンツの作成についての打ち合わせ	ソニーシティ大崎
11 月 16 日	鉄道を活用した Locatone コンテンツ作成のため現地調査	竹野駅～香住駅
3 月 8 日	学術情報館主催のイベントにて成果の一部について報告	豊岡市立図書館

◆成果

1. 音声コンテンツは利用者の「想像力」によって視覚効果を補うことが明らかとなった。
2. 音声コンテンツや映像と比較して、制作や維持管理が容易であることが明らかとなった。
3. 生成 AI を使用し、行政がこれまでに刊行した資料やデータ等を活用する方法を確立した。
4. 既存の鉄道や路線バス路線などを観光列車、観光バスとして活用する方法を確立した。
5. AI を活用することでガイド不足の解消するための具体的なモデルの構築に成功した。
6. 同様の手法は、観光以外にも防災や郷土教育などでも活用できることが明らかとなった。



学生らと一緒にいった現地調査の様子



生成 AI を利用した観光コンテンツの構築

◆テーマ RICプロジェクト「香美町地域連携事業 日本語教室ボランティア育成事業」

◆研究者 講師 姚 瑶

◆キーワード 多文化共生、日本語ボランティア

◆概要 日本語ボランティア数の減少という課題を解決するため、町内で多文化共生・日本語教室に興味を持っていただくきっかけを作り、今後の人材育成及び町内の意識醸成を図る。

◆事業内容

町民向けのワークショップを実施。(3回)

◆成果

多文化共生ワークショップ3回実施

1. 異文化理解 (2024.8.10)
2. やさしい日本語 (2024.8.24)
3. 日本語教育基礎 (2024.9.7)

事業実施

参加者数 30 人



写真1 異文化理解ワークショップ①



写真2 異文化理解ワークショップ②



写真3 やさしい日本語ポスト作り



写真4 グループワーク



写真5 演劇に挑戦する参加者たち



写真6 日本語ボランティア経験談

◆テーマ **RICプロジェクト「新温泉町観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業」**

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード 観光、スポーツ、ウォーキングコース、ウォーキングイベント、デザイン思考

SHIN
ONSEN

◆概要

本事業は、次の2点を目的として取組みを進めていくものである。①新温泉町の観光・スポーツ振興に繋がる地域に潜在する観光・スポーツツーリズムの資源の発掘を目指し、町民の生活と健康に寄与すること、②観光・スポーツツーリズムの資源を活用したスポーツ交流を主としたイベント、事業等を企画し、新温泉町における交流人口・関係人口の増加を目指すこと。

◆事業内容

ウォーキングコースが多数存在するのに町民のウォーキングが活発ではないことに鑑み、町民が抱えるニーズを起点に、アイデアやプロダクト開発、テストを繰り返しながら課題解決に取り組む思考様式・プロセスである「デザイン思考」を用いたフィールドワークに学生とともに取組んだ。フィールドワークの中で、町民が歩きたくなるメカニズムを一部解明し、その具現化策の一つとしてウォーキングコース等を開発した。

◆成果

1. 新温泉町民が歩きたくなるメカニズムの一部解明（諸寄、居組エリア）

「健康増進や運動不足解消」、「自然を楽しむ」、「交流を楽しむ」という3つの目的が存在。ウォーキングを頻繁に行う者は、季節毎に景色が変化することを楽しみ、季節や時間といったタイミングに応じて眺望や動植物との出会いに適した場所を選んで歩くというライフスタイルをもっているという傾向が確認できた。さらに、高齢者の間ではウォーキングをコミュニケーションの手段ととらえていることがわかった。

2. 学生によるウォーキングコース、ウォーキングイベント・施策の開発

(1) 浜坂エリア（ウォーキングイベント・施策）

- ①「白砂青松に灯す ―はまさか海辺の光まつり―
- ②「わたしのウォーキングコースコンテスト」
- ③「地元でめぐるボイスラリーツアー」
- ④「今ある説明書きを増やしたり、地面に次の目的地までの距離を表示したりする。古地図や、昔の写真を配布し、今との違いを楽しんでもらう。」

(2) 諸寄エリア（ウォーキングコース）

- ①「風待ち、潮待ち、人を待ち おだやか散歩コース」（図1）
- ②「諸寄だヨ!!待夢に集合!!」
- ③「地域の魅力を再発見 歴史発見コース」

(3) 居組エリア（ウォーキングコース）

- ①「あっちもそっちも友達んち ほっこりにぎやかお散歩コース」（図2）
- ②「居組 龍の歴史路」



図1 諸寄エリアのウォーキングコース



図2 居組エリアのウォーキングコース

◆テーマ **RICプロジェクト「諸寄地区における観光産業活性化事業実施事業」**

◆研究者 教授 中尾 清、准教授 杉山 至、准教授 小畑 克典

◆キーワード 観光まちづくり、日本遺産、北前船・船主集落

◆概要

諸寄地区は、平成 30 年 5 月に「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受けたことを機に、地域全体でまちづくりに取り組む組織「諸寄活性化委員会」を立ち上げ、活動を行っている。

本プロジェクトの 4 年目となる今年度は、「地域の活性化と観光」「観光と地域づくり」を継続するとともに、今年度から検討する「廻船問屋道盛邸」の整備後の活用について、現地視察等を通じて指導助言を実施した。また、地域の魅力再発見や先進事例の紹介等を行った上で、観光とまちづくりについて地域住民も参加したワークショップを開催し、議論を深めるきっかけとした。

◆事業内容

1. 諸寄活性化委員会の会議への参画 【場所：諸寄基幹集落センター】
8月2日（金） 16：00～（中尾教授、事務局）
1月28日（月） 14：00～（杉山准教授、事務局）
2. 諸寄まちづくり意見交換会 【場所：新諸寄基幹集落センター】
10月20日（日）14：00～（中尾教授、事務局）
テーマ：「廻船問屋千原道盛邸」の活用について
3. 千原屋道盛邸視察 【場所：道盛邸】
2月23日（日） 14：00～（杉山准教授、小畑准教授、事務局）

◆成果

1. 諸寄まちづくり講演会の開催【場所：諸寄基幹集落センター】
3月8日（土） 13：30～15：30
講師：川夏晴夫氏（新温泉町教育委員会 文化財担当）、杉山准教授、小畑准教授
アイデアソン（少人数座談会） ファシリテーター：小畑准教授



諸寄まちづくり講演会、アイデアソンの様子

◆テーマ RICプロジェクト「新温泉町民バス政策検討事業」

◆研究者 講師 野津 直樹

◆キーワード 地域公共交通、新温泉町、町民バス、夢つばめ、GTFS、アンケート調査、バス路線網

◆概要

本事業は、新温泉町内で運行する町民バス「夢つばめ」の今後のあり方、交通体系の維持・刷新を検討し、持続可能かつ効率的な運行体系の構築を目指したものである。

具体的には標準的なバス情報フォーマット(GTFS)を活用したバス路線網の可視化、浜坂高校生の利用状況に関するアンケート調査、浜坂駅前での乗降調査等を実施した。



図1 浜坂駅前で出発を待つ町民バス「夢つばめ」

◆事業内容

1. GTFS を活用したバス路線網の可視化

- 「GTFS-GO」プラグインを用いて、町民バス「夢つばめ」の路線と停留所を地図上に表示した。
- 区間別の運行頻度を可視化し、利便性の高い地域とそうでない地域の差異を明確にした。

2. 浜坂高校生の町民バス通学と利用に関するアンケート調査

- 浜坂高校の全校生徒を対象に、通学利用状況や利用実態、意見等を調査した。
- Google フォームを用いてオンラインで実施し、173 名の回答を得た。

3. 浜坂駅前における特定日のバス乗降調査

- 浜坂駅前におけるバスの乗降状況を調査し、利用者数や利用者特性・動向を把握した。

◆成果

1. GTFS を活用したバス路線網の可視化

- 町内のバス路線の利便性の地域差を可視化し、今後の運行体系構築の基礎データを提供した。

2. 浜坂高校生の町民バス通学と利用に関するアンケート調査

- 高校生の町民バス利用状況や通学手段、利用頻度、意見・要望等を把握した。
- 主な通学手段は「町民バス」(32.9%)、「徒歩」(27.7%)、「車送迎」(19.1%)、「自転車」(17.3%)であり、前回調査(平成30年度)と比較すると、高校生の通学手段として町民バスの利用率が減少し、自家用車送迎や自転車の利用が増加傾向にあった。
- 23.1%は週1回以上町民バスを利用し、利用者の約7割は「浜坂温泉線」を利用していた。

3. 浜坂駅前における特定日のバス乗降調査

- 年末の多客期には、町民バスは地域住民の通学・通院のみならず、観光客や帰省客の二次交通としての役割も果たしていた。一方、JRとバスの発着時刻の接続状況はまちまちで、乗継利便性に課題があることも分かった。冬季は特に雪害や動物との衝突による列車遅れも懸念されることから、浜坂駅前における乗換待ち時間の過ごし方に一層焦点を当てた検討をすべきこと等を提言した。

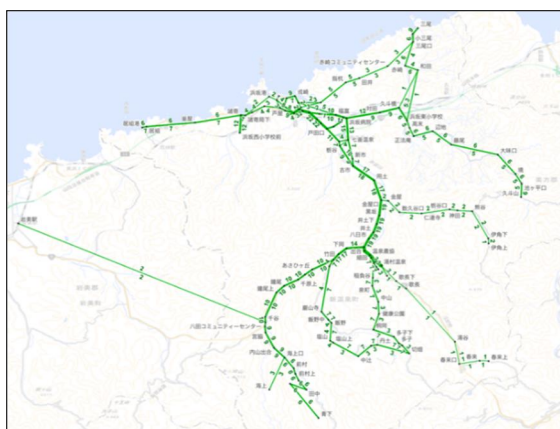


図2 GTFS-GOを用いて自動作成した町民バスの運行頻度路線

表1 令和6年12月28日 浜坂駅 町民バス乗降調査タイムライン(11:00~16:00)

時刻	イベント	種別・方面	調査・集計内容	集計結果
11:21	JR到着	普通列車(豊岡駅発)	バス乗り場に来る人数	0人
11:23	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	2人
11:30	バス出発	湯村温泉行	乗車人数(JRからの乗り換え含む)	0人
11:35	JR到着	特急列車(大阪発)	バス乗り場に来る人数	1人
11:56	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	2人
12:10	バス出発	湯村温泉行	乗車人数(JRからの乗り換え含む)	2人
12:31	JR到着	普通列車(城崎温泉発)	バス乗り場に来る人数	0人
13:03	JR到着	普通列車(鳥取発)	バス乗り場に来る人数	2人
13:11	JR到着	臨時特急列車(大阪発)	バス乗り場に来る人数	0人
13:21	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	2人
13:28	JR到着	特急列車(鳥取発)	バス乗り場に来る人数	6人
13:30	バス出発	湯村温泉行	乗車人数(JRからの乗り換え含む)	2人
13:53	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	1人
14:07	JR到着	普通列車(鳥取発)	バス乗り場に来る人数	1人
14:25	バス出発	湯村温泉行	乗車人数(JRからの乗り換え含む)	7人
14:56	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	2人
15:13	JR到着	普通列車(豊岡駅発)	バス乗り場に来る人数	4人
15:18	バス到着	湯村温泉発	JR駅に向かう人数	0人
15:45	バス出発	湯村温泉行	乗車人数(JRからの乗り換え含む)	4人
15:49	JR到着	特急列車(鳥取発)	バス乗り場に来る人数	0人
15:52	JR到着	臨時特急列車(大阪発)	バス乗り場に来る人数	7人

◆テーマ **RICプロジェクト****「令和6年度但馬広域行政事務組合職員研修（政策づくり研修 ー基礎編ー）」**

◆研究者 教授 山中 俊之、准教授 瓶内 栄作

◆キーワード 政策づくり、市民ニーズ、コミュニケーションデザイン、ロジカルシンキング、シナリオプランニング

◆概要

市民ニーズをとらえ、バランスよく、かつ的確に対応するために、実践的な政策作りの考え方や手法を学ぶ。

◆事業内容

【研修内容】

係長級以下の職員を対象とした研修。

①政策立案において必要な視点 ②政策において必要なロジカルシンキング ③シナリオプランニング ④コミュニケーションデザインワーク等について、全 3 日間の日帰りの研修を実施。また、最終日に、各班によるプレゼンテーションを実施。

◆成果

（アンケート回答より抜粋）

- ・全体を異なる視点で捉えることが重要だと分かった
- ・様々な視点で政策を見ることを学んだ
- ・様々な職員と交流し共有することで、自分の考え方にはないものを知る機会となった
- ・1つ1つの演習を実際に行うことで、これまでなかった発想をするきっかけとなった

実施プログラム

内容	講師	日程
・政策立案において必要な視点 ・政策において必要なロジカルシンキング	山中俊之 教授 瓶内栄作 准教授	6/13
・シナリオプランニング ・コミュニケーションデザインワーク		7/11
・発想、視野を広げる ・プレゼンテーション		9/5



研修の様子

◆テーマ RICプロジェクト「ひょうごフィールドパビリオン地域内連携の強化と情報発信事業」

◆研究者 講師 野津 直樹

◆キーワード 地域内連携、観光客行動調査、デジタルスタンプラリー、学生モニターツアー、モデルコース作成

◆概要

本事業は、大阪・関西万博を契機とし、ひょうごフィールドパビリオン（FP）の取組により多くの方を但馬地域へ誘致するため、各 FP の地域内連携の強化や磨き上げ、情報発信等の効果的な取組を推進する事業である。具体的には、観光客の行動調査、学生モニターツアー、モデルコースの作成という 3 つの事業を通じ、但馬地域における観光の強みと弱みを明確にし、誘客促進と地域活性化に繋がる施策を提言した。

◆事業内容

1. 学生モニターツアーの実施

- 本学が学生グループを編成し、但馬地域管内の FP を実際に体験するモニターツアーを複数回実施した。

2. モデルコースの作成

- 学生モニターツアーで得られた学生の意見や評価等を基に学生ワークショップを実施し、但馬地域管内のFPを巡るモデルコースを作成した。

3. 観光客の行動調査

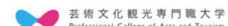
- 豊岡演劇祭 2024 参加者等を対象に、観光情報を提供するアプリを用いた行動調査を実施した。
 - 調査結果に基づき、但馬地域における観光の強みと弱みを分析し、施策提言をまとめた。
- 図 1 学生が参加したモニターツアー



図1 学生が参加したモニターツアーの様子

◆成果

4. 日帰りでも楽しめる手軽な但馬ツアーユニット



1. 学生モニターツアーの実施

- モニターツアーに参加した本学学生が但馬地域管内の FP を実際に体験し、魅力や改善提案等をまとめたレビューを作成した。

2. モデルコースの作成

- 学生たちのアイデアをベースに多様なターゲット層に向けたモデルコースが開発され、大阪・関西万博をはじめ各地で配布予定の「ひょうごフィールドパビリオン 但馬エリアマップ」(日/英)に掲載された。
- モデルコースの一部は地域公共交通の利用促進も念頭に置き、地域内の交通手段や所要時間等も考慮して作成された。



図2 学生作成したモデルコースの一例

3. 観光客の行動調査

- 観光情報アプリ「Horai」内に FP 情報を掲載し、デジタルスタンプラリー企画と連動した情報発信を実施した。
- 「豊岡演劇祭 2024」参加者の属性やスタンプ取得状況、アプリ利用状況から FP 情報発信の課題を抽出し、広域周遊ルート造成、連携プログラム開発等の施策を提言した。



図3「豊岡演劇祭2024」参加者の移動範囲とFP立地を重ね可視化した地図（一部）



図4 「Horai」アプリでの情報発信

◆**テーマ** RICプロジェクト「行政・商工団体担当者向け 事業承継セミナー」

◆**研究者** 准教授 瓶内 栄作

◆**キーワード** 事業承継、地域連携

TAJIMA
KENMIN
KYOKU

◆**概要**

但馬地域において行政・商工団体の事業承継支援におけるあるべき姿について、研究成果を共有するとともに、機関間での情報交換を実施し、地域ぐるみでの事業承継支援の機運を醸成する。

◆**事業内容**

(1) 瓶内准教授による講演 「事業承継支援における行政・商工団体の役割」

本講演では、近年の事業承継の背景、事業承継の代表的な施策、事業承継支援における行政・商工団体の役割、といった内容について解説を行った。中小企業経営者の高齢化が進む状況についての周知から始まり、事業承継における代表的な支援策についての紹介や、事例紹介などを行った。その後、行政・商工団体の事業承継支援におけるあるべき姿について意見交換として、各市町ならびに市町商工会議所・商工会による現状共有を行った。

◆**成果**

今後の取組のあるべき姿として、事業承継に特化した連携ネットワーク会議や、既存の連携システムの活用による情報共有の活性化などの議論があった。

◆**テーマ** RICプロジェクト「起業スタートアップ支援事業」

◆**研究者** 准教授 瓶内 栄作

◆**キーワード** 起業、経営革新、新分野進出

TAJIMA
KENMIN
KYOKU

◆**概要**

但馬地域において起業、新分野創出・新規事業を計画している方へ向けて本事業を実施し、起業・第二創業の推進および起業家同士の交流の場の創出を目指す。

◆**事業内容**

(1) 瓶内准教授による講演 「人口減少から考える但馬での創業・第二創業」

現在日本に置きつつある賃金上昇と大企業と中小企業間の賃金格差拡大の傾向が、戦後しばらくにあった中小企業の二重構造論の当時の様相に近いことや、創業の理由が生業型から自己実現型へ変遷していることに触れ、その後人口減少を認識し、ポジティブに転換する方法として、市場構造の変化に適合するビジネスモデルの検討方について触れた。

(2) 創業者と兵庫県信用保証協会によるプレゼンテーションとパネルディスカッション

Café Coucou 中田氏による創業までの経緯及び自社事業の紹介と、兵庫県信用保証協会 竹安氏による信用保証協会の説明を受けた。つぎに両者をパネラーとしてパネルディスカッションを実施した。パネルディスカッションでは、①但馬での創業について、②融資のために金融機関等からの信用を得る方法、③創業者へのエールなどを訪ねた。

(3) グループワーク

参加者とパネラーが3択に分かれる形式で、但馬の環境変化と活用できる経営資源、これからのビジネスモデルについて検討するグループワークを実施した。

※兵庫県但馬県民局主催、(株)但馬銀行及び本学が共催として、「スタートアップビジネススクエア 2024」を実施し、そのなかで講演を実施した。

◆**成果**

- ・起業支援者と起業家より発表
- ・瓶内先生による評価コメント、参加者からの 質疑応答
- ※終了後、参加者同士の交流

◆テーマ RICプロジェクト「伊丹高校表現活動探求に係る講演実施事業」

◆研究者 学長 平田 オリザ

◆キーワード コミュニケーション教育、演劇的手法、高校教育

◆概要

伊丹市立高等学校の生徒に向けて、「自己の表現能力を高めること」、「演劇を完成させるための想像力や準備力」、「仲間と協働して一つの作品を作り上げる協調性を養うこと」について、文化祭の演劇を通して育成するための講演を実施した。

◆事業内容

実施日：令和6年4月18日(木)

場 所：伊丹市立伊丹高等学校内

講 師：芸術文化観光専門職大学 学長 平田オリザ

◆テーマ **RICプロジェクト「峰山中学校『心を広げるコミュニケーション講座』実施事業」**

◆研究者 学長 平田 オリザ、講師 山内 健司

◆キーワード 中学校教育、コミュニケーション

◆概要

京丹後市立峰山中学校における生徒の心の健康に係る支援充実のため、講演及びワークショップを通じて、課題解決能力や自己肯定感の醸成、心理的安全性の確立などを図る機会を提供する。

◆事業内容

(1)講演の部

日時：令和6年11月20日（水）

場所：京都府丹後文化会館（京都府京丹後市峰山町杉谷 1030）大ホール

内容：講演「今、ふるさとに生きる中学生諸君へ」、「峰山中学校長＆生徒とのトークセッション」

講師：芸術文化観光専門職大学 学長 平田オリザ

対象：峰山中学校全校生徒 262 名及び保護者、教職員

(2)ワークショップの部

日時：令和6年12月18日（水）

場所：兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市山王町 7-52）

内容：体験活動Ⅰ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：学長 平田 オリザ

体験活動Ⅱ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：講師 山内 健司

体験活動Ⅲ 大学施設見学+大学説明

対象：峰山中学校第2学年生徒 約 80 名

◆成果



◆テーマ **RICプロジェクト「演劇で学ぶコミュニケーション能力養成講座実施事業」**

◆研究者 学長 平田 オリザ

◆キーワード 教育、研修、コミュニケーション

◆概要

県内の公立小中高及び特別支援学校の教員向けに、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育の在り方、及び児童生徒に身に付けさせたいコミュニケーション能力・表現力について理解する研修を実施する。

◆事業内容

○講義：「演劇で学ぶコミュニケーション」

講師：平田 オリザ（芸術文化観光専門職大学 学長）

○演習：演劇的手法を用いたコミュニケーション能力向上ワークショップ

演劇的手法の視点を生かした学級集団づくり

講師：平田 オリザ（芸術文化観光専門職大学 学長）

◆成果

令和6年10月17日(木)、県内の公立小中高及び特別支援学校の教員約47名に向けて、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育の在り方、及び児童生徒に身に付けさせたいコミュニケーション能力・表現力について理解するための講義、演習を実施した。



◆テーマ RICプロジェクト「但馬観光協議会と芸術文化観光専門職大学との連携事業」

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード 地域連携、情報発信、動画制作、インバウンド

◆概要

但馬地域の観光関係団体職員の交流を深めるとともに、観光を専門とする地元大学の教員・学生の知識・視点等を取り入れつつ、波及力がある動画の制作スキルを習得し、「大阪・関西万博」に向け但馬地域一体となって情報発信を行うことを目的とした事業である。

初年度となる令和4年度は但馬地域としての情報発信に向けた但馬共通の世界観やテーマ、連携方法の議論をし、令和5年度は情報発信の一つとなる具体的な動画の制作スキルを学んできた。本事業の磨き上げとなる令和6年度は動画作成・発信の方策についての知見を高めるとともに、講義とワークショップによって参加者の学びと連携を喚起することを目指した。

※但馬観光協議会は兵庫県但馬県民局内に設置

◆事業内容

1. 事前提出動画の視聴（令和5年度の学びを通じた団体職員による動画制作物の共有と議論）
2. インフルエンサー講義「SNS 発信講座」講師：ほりいみほ（旅行系インフルエンサー）氏
4. 講義「動画作成・発信について消費者行動論から考える」講師：高橋 伸佳
5. ワークショップ「高付加価値旅行者向け動画作成・発信のためのワークショップ」講師：高橋 伸佳

◆成果

1. 但馬地域の観光関係団体職員の交流による行政区分を超えた一体感と連携機運の醸成
2. 観光動画の作成と発信の具体的な方法についての学び
3. インバウンド施策としての但馬地域の観光資源の掘り起こしと独自コンテキストの構築

図表1 講義「動画作成・発信について消費者行動論から考える」スライド例

動画配信について消費者行動論から考える	動画配信について消費者行動論から考える
<p>1. 信頼性と専門性の強調</p> <p>例：「このツアーは、世界遺産の専門ガイドが案内するので、より深い知識と理解が得られます。」というような発信。</p> <p>2. 同調性（社会的証明）の活用</p> <p>例：「数千人の旅行者が絶賛しているツアーで、あなたも新たな発見を楽しめます。」というような発信。</p> <p>3. 感情に訴えるアプローチ</p> <p>例：「この旅行で、まるで映画の中にいるかのような美しい景色を目の前にして、忘れられない瞬間を過ごすことができます。」というような発信。</p> <p>4. 希少性と緊急性の訴求</p> <p>例：「このツアーは残りわずか、今すぐ予約しないと手に入らないかもしれません！」というような発信。</p>	<p>5. パーソナライゼーションの提案</p> <p>例：「もしあなたが自然が好きなら、このツアーは絶対におすすめです。大自然の中でリラックスしながら、美しい景色を堪能できます。」というような発信。</p> <p>6. ストーリーテリングの活用</p> <p>例：「あのビーチに着いた瞬間、空気が一変したんです。波の音とともに、心からリラックスできた瞬間が忘れられません。」というような発信。</p> <p>7. 有名な人物やインフルエンサーによる推薦</p> <p>例：「〇〇さん（有名人）がこのツアーを推薦しています！彼が絶賛する理由を体験してみてください。」というような発信。</p> <p>モノのマーケティングとは異なり、サービスは複雑だ！</p>

図表2 ワークショップ「高付加価値旅行者向け動画作成・発信のためのワークショップ」スライドと例その様子

高付加価値旅行者向け動画作成・発信のためのワークショップ

高付加価値旅行者の誘致を考える。

動画作成・発信のためのワークショップ

米国男性1人旅の誘致に向けた日本での滞在スタイル提案

「但馬周遊動画コンテンツ」を提案してください！



1. 滞在を象徴するコピー（タイトル）
2. コンセプト/ポイント
3. 周遊プラン 1泊2日の内容
但馬着・但馬発（着地型）
4. 含める要素
 - ・本物の体験
 - ・エクスクルージブ（独占的、高級）
 - ・パーソナライズ
 - ・地球環境への配慮
 - ・これまでにない革新的なもの
 - ・学びがあること

注）コンテンツについては、現在は存在しないサービスを加えても可。



◆テーマ RICプロジェクト「兵庫県の高校生対象 観光・まちづくりセミナー」

◆研究者 准教授 小畑 克典、助教 高橋 加織

◆キーワード 観光、まちづくり、高校生

◆概要

神戸市を中心とした兵庫県内の高校生を対象にした観光・まちづくりセミナーである。本セミナーでは、開湯から 1300 年を迎えた城崎温泉において、2014 年に開館した城崎国際アートセンター（KIAC）を訪問した。KIAC では、アーティスト・イン・レジデンスと呼ばれるアーティストが KIAC の宿泊施設に滞在しながら、城崎のまちや人々に日々ふれあいながら創作活動を行う場を提供している。城崎における新たなまちづくりの場に触れることにより、高校生の発想を広げる機会となった。ワークショップでは、「最低・最高の旅行を企画してみよう！」を行い、7 つのチームに分かれ議論し、それぞれのチームがユニークな旅行計画を発表した。

◆事業内容

1. 観光・まちづくりの施設訪問 (KIAC 館長 志賀玲子氏)
2. ワークショップ「最低・最高の旅行を企画してみよう！」

◆成果

神戸を中心に 39 名の高校生が但馬に集まり、城崎温泉における新たなまちづくりのアプローチであるアーティスト・イン・レジデンスについて学び、アート×まちづくり×観光について学ぶことができた。

今回で 4 回目を迎えた本セミナーであるが、年々応募者数が増加しており、兵庫県内の高校生の交流の場になっている。本年度は 19 校、総勢 70 名からの応募があり、抽選のうえ 43 名が参加した。観光に対する高校生の興味は増加傾向にあり、この機会を通じて、新たな発見と今後の興味関心につながると感じた 1 日であった。

事業実施

・2025年3月15日(土)

参加者数 神戸発着：35名、現地集合：4名、合計39名（ほか当日欠席4名）

(学年 高校1年生:13名、高校2年生22名、高校3年生1名)



写真 1 グループ発表（ワークショップより）

テーマ 語彙の卒業 VL OG "A"ー

コンセプト ハワイも行け?!

10月でへ行(ちゅ)!! ワイロのチキ

スケジュール 両岸限定

1日目! 糸島動 8:00 発着
参拜課者さん海防アイズにホネ
とてモバースマをうごき居

2日目! 深夜2時到着
ホテルヲホリリヤン・Xリタ(ちゅッピン)
マニョ(ちゅ)に行く!! (9:00~)白(1:00)
マニョ(ちゅ)食(お用言わけず)ヒーカンモッ
マニョ材料ト → ホテル

3日目! アレアレ 住馬(おとこ1日)
朝しらの急になサポート付き

4日目! 糸島動

ここがポイント!

- ・糸島動たくぐん!! (宿泊費節約)
- ・参拜課者さんの手厚いサポート(ホテル予約と日付の予約)

表1 最高のツアー（ワークショップより）

◆テーマ **RICプロジェクト「道の駅神鍋高原イベントスペースの利活用方法の検討事業」**

TOYOOKA
SCI

◆研究者 准教授 瓶内 栄作

◆キーワード 道の駅、地域活性化、まちづくり

◆概要

豊岡市日高町にある神鍋高原エリアは冬のスキーシーズンを中心に、夏には合宿やキャンプなど、通年通してアクティビティが活況である、ただ長年において地域の個別事業者による地域開発がなされた結果、エリア全体を通しての全体最適な開発やプロモーションなどの行動ができていない状況ではある。全体的な在り方検討が進むなか、施設内にある「イベントスペース」の利活用については具体的な検討がなされなかった。

当該状況を受けて、今回本プロジェクトメンバーと芸術文化観光専門職大学では、地域観光エリア拠点としての機能強化を目的に、観光客に地域の事がわかりやすく、地域の方が利用しやすい活用方法を検討することとなった。

◆事業内容

1. 文献・資料調査
2. 学生による活用方法のプレゼンテーション
3. 近隣事業者との意見交換
4. 道の駅の機能および事例から見る方向性検討

◆成果

あるべき姿として、施設機能視点アプローチと地域視点アプローチの両立を提案した。例としては、地域に開かれた定期的な利用シーンの確立として、①定期的な地域住民のための利用シーンと、②定期的な外部向けイベント開催となる。①については、平日や夜間を活用した催しならびにナイトエコノミーの充実などを指し、②については地域の特産品や文化、歴史をテーマにした展示会、演劇、音楽、怪談コンテストなど、文化的イベントを企画し、地域の魅力を再発見するとともに、住民のアイデンティティ向上を図ることを提案した。

一方課題としては、定期的なイベント開催における事務負担の軽減や、持続的に取り組むための自主財源の獲得、持続的に取り組むためのコア人材の獲得と育成などがある。

図. 施設機能視点アプローチと地域視点アプローチの概念図



◆テーマ **RICプロジェクト「道の駅“東浦ターミナルパーク”活性化事業に係る調査等事業」**

AWAJI
SCI

◆研究者 准教授 瓶内 栄作、准教授 杉山 至、講師 千賀 喜史

◆キーワード 道の駅、地域活性化、まちづくり

◆概要

本委託事業においては、芸術文化観光専門職大学の多彩な教員のなかから、アート分野とマネジメント分野の教員ならびに学生アシスタントが参加し、淡路市に所在する東浦ターミナルパークの現状についての調査と、東浦ターミナルパーク活性化協議会ワーキンググループへの参画を行った。当該連携事業は昨年度から実施されているが、当年度事業については①一般利用者向けアンケートの収集と分析、②ワーキンググループならびに活性化協議会での検討、③ランドデザインの作成が行われている。

◆事業内容

1. 一般利用者向けアンケートの収集と分析
2. ワーキンググループならびに活性化協議会での助言
3. グランドデザインの作成

◆成果

芸術文化ならびに経営系教員のもつ、それぞれの視点から分析助言が行われた。

①一般利用者向けアンケートの収集と分析

東浦ターミナルパーク活性化協議会にて収集したアンケートについて分析を行った。

調査結果から、大多数の回答者は島内在住者であり、島外来訪者についても大半が兵庫県内の居住者であった。年齢は50代の回答が目立ったが、島外来訪者の方が人世代若い。また、主な滞在時間は地域住民が29分以内、観光客が59分以内であり、平均利用金額は1,999円以下であることがわかった。

②ワーキンググループならびに活性化協議会での検討

ワーキンググループ7回と活性化協議会ならびに近隣との説明会4回において、それぞれの教員の視点から助言を行った。

③ランドデザインの作成

これまでの調査結果を背景に、杉山教員ならびに学生のチームにてビジュアルイメージの検討を行った。「海と触れ合い、淡路島を五感で楽しむ道の駅」として、海寄りに施設集約をしたイメージを作成した。

以上の内容をもって調査報告書を作成した。

図. グランドデザイン作成にかかる調査ならびに意見交換会の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「近畿大学附属豊岡中学校コミュニケーションワークショップ実施事業」**

◆研究者 講師 山内 健司、講師 姚 瑶

◆キーワード コミュニケーション教育、演劇的手法、中学校教育

KINKI UNIV.
JUNIOR HIGH
SCHOOL

◆概要

様々な校区から生徒が集まる近畿大学附属豊岡中学校においては、新たな環境で他人を受容し、自身について発信するスキルが重要となる。今後社会に出ていくうえで遭遇する様々な場面においても活かせるコミュニケーション能力を育むため、クラス替えのある新学期のタイミングで演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップを実施し、コミュニケーション能力の向上とクラスづくりのきっかけを創出する。

◆事業内容

実施日：令和6年4月22日（月）

場 所：芸術文化観光専門職大学内

講 師：芸術文化観光専門職大学 講師 山内 健司、講師 姚 瑶



◆テーマ **RICプロジェクト「青翔開智中学校コミュニケーションワークショップ実施事業」**

◆研究者 助教 田上 豊

◆キーワード 演劇、表現、コミュニケーション、演劇教育

◆概要

演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップを実施することで、自主性や自立心の育成、多様性への理解、そして他者を尊重する姿勢を養うことを目指す。また、本学の特色であるコミュニケーション教育を体験することで、この分野への知的好奇心を高めることを図る。さらに、ワークショップで得た知見を実生活の活性化に役立てることを目指す。

◆事業内容 （※50名を2クラスに分け、同じプログラムを午前と午後の2回に分けて実施）

Aクラス	Bクラス
11:00～12:30 WS実施	11:00～11:30 学内案内
12:30～13:30 お昼休憩	11:30～12:30 お昼休憩
13:30～14:00 学内案内	13:30～14:00 学内案内

■演劇ワークショップの実施プログラム

1. WSの説明、アシスタント紹介、手遊び3種
2. 椅子とり鬼ごっこ
3. 電球クイズ
4. 聖徳太子ゲーム
5. 講師を椅子から立たせるゲーム（メインのアクティビティ）
 - ・作戦考案→実施
 - ・振り返り（講師からのフィードバック）

(1) 実施日時

令和6年4月25日(木)

(2) 対象

中学2年生 53名程度

(3) 講師、アシスタント

田上豊、村井まどか、SA

(4) 会場

静思堂シアター

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「JICA 発展途上国向け訪日研修における協力事業」**

◆研究者 学長 平田 オリザ、教授 西崎 伸子

◆キーワード 人材育成、地域資源、地域活性化、インバウンド

◆概要

PREX（公益財団法人 太平洋人材交流センター）が JICA（独立行政法人 国際協力機構）関西より委託を受けて実施する発展途上国の観光関係行政官等向け訪日研修において、研修プログラムの一部を本学が協力して実施した。

◆事業内容

実施日 令和6年9月5日（木）

場 所 芸術文化観光専門職大学

参加者 11カ国 12名（「持続可能な観光地域づくりのための人材育成研修」参加者）

内 容 講義 「芸術文化観光専門職大学の人材育成と地域連携」

学長 平田 オリザ

講義・WS 「Human Resource Development in Rural Tourism」

教授 西崎 伸子

・WS では、参加者のそれぞれの国で自然と文化が楽しめる場所の紹介や課題を共有したり、人材育成について、日本や他国から学べることが何かなどを話し合っていました。



◆テーマ **RICプロジェクト「ふれぶんアートマネジメント講座 2024」**
地域に根差したアートマネージャーを目指して」

KASUGA
FUREBUN

◆研究者 教授 古賀 弥生

◆キーワード アートマネジメント、文化のまちづくり、地域活性化、人材養成、ネットワーク形成

◆概要

「地域社会」と「芸術文化」の間をつなぐ“アートマネージャー”として、地域に根差した活動を行うために必要な視点や考え方を修得する。市民やコミュニティの抱える課題やニーズに応えるための取り組みについて、座学と体験、グループワークを通して学ぶ。

◆事業内容

講座のプログラム立案、運営の監修及び研修講師を担当。

□対 象：地域社会と芸術文化活動をつなぐアートマネージャー・コーディネーターとしてステップアップしたい方や、今後活動していきたいと考えている方
 将来、アートマネジメントに関する仕事に就きたいと考えている学生
 定員 15 名程度

□開催日時：令和 6 年 12 月 1 日（日）10:00～16:00
 市の音楽アウトリーチ事業の視察等
 令和 7 年 3 月 22 日（土）14:00～17:00
 3 月 23 日（日）10:00～16:00

□会 場：春日市ふれあい文化センター（福岡県春日市）

□内 容：

（1 日目）

* アイスブレイク&自己紹介

講義：アートマネージャーの仕事を知ろう（ゲスト講師 2 名による事例紹介とクロストーク及び講話）

（2 日目）

市の音楽アウトリーチ事業の成り立ちを学ぶ講義と視察から学んだことのまとめ

（3 日目）

視察レポートのプレゼンテーションと地域課題に芸術文化でアプローチする可能性を考えるディスカッション



◆成果

1. 定員 15 名のところ 20 名の応募があり、選考の末 16 名の市民に参加していただいた。参加者はいずれも熱心で講師への質問も多く寄せられた。
2. 5 年計画の人材養成講座の 3 年目にあたり、中級編ともいえる内容で実施ができた。単年度の実施では基礎知識の修得にとどまることが多いが、本講座では具体的な市の文化事業について「財政担当者に事業継続をアピールする」というテーマでグループワークとプレゼンテーションを実施し、芸術文化の社会的意義に関わる深い学びを提供できた。
3. アイスブレイクやグループワークを通じて参加者同士が交流し、休憩時間や講座終了後も話し込むなど、今後の活動につながるネットワーク形成を促進できた。
4. 初任者も含む施設職員が講座を聴講し研修の機会にもなった。



講座の様子：左から 12/1、3/22、3/23

◆テーマ RICプロジェクト「豊岡市工業会PR動画作成」

◆研究者 准教授 瓶内 栄作

◆キーワード ものづくり、人材確保

◆概要

製造業に関心を持ってもらい、就職説明会などで関心を持ってもらえるようにすることを狙いとして数本のショート動画を作成する。なお、本動画素材の元になった内容は、本学臨地実習である地域イノベーション実習にて、実際に学生たちが体験をした内容をもとに、実習生であった学生たちの協力により製作されている。

◆事業内容

タイトル：セイゾー・ギョーとわたしたち

概要：製造業に対して全く興味がない、むしろマイナスなイメージを抱えている大学生2人に対して実習を通してセイゾー・ギョウが製造業の魅力を説明し、マイナスイメージを払拭していく物語。
SAによって動画素材を作成し、学生・教員が声を当てた。

各話タイトル：

- #1 ちひろとひなとセイゾー・ギョーの出会い
- #2 製造業のイメージと実際とのギャップを知ろう
- #3 製造業にふれてみて

図．動画のイメージ



◆成果

- ・製造業への関心が低い学生が、製造業での仕事に興味を持つまでのプロセスを短時間の動画にまとめた。
- ・ものづくりを知ってもらうきっかけになる動画素材を作成した。

◆テーマ **RICプロジェクト「アルカス SASEBO アートマネジメント研修会」**
アートでつながる・ひろがる・しあわせの WA!」

SASEBO

◆研究者 教授 古賀 弥生

◆キーワード アートマネジメント、文化のまちづくり、地域活性化、人材養成、ネットワーク形成

◆概要

テーマ：「アート活動が人や地域を元気にする！」
 アート活動は社会的に意味合いのあるもの、という認識をベースに地域を元気にするアート活動を行うための知識（資金調達、告知など）の習得と活性化（ネットワークづくり）を目指す。

◆事業内容

研修会のプログラム立案、運営の監修及び研修講師としてアイスブレイクと
 レクチャー、企画の講評を担当。

□対 象：地域でアート（演劇・音楽・美術・ダンスなど）活動を行っている方。

アート活動を通じた地域活性化に興味がある方。定員 30 名

□開催日時：令和 7 年 2 月 8 日（土） 13:00～17:45

2 月 9 日（日） 9:30～12:00

□会 場：アルカス SASEBO イベントホール（長崎県佐世保市）

□内 容：

（1 日目）

*アイスブレイク&自己紹介

①アートで人とまちがしあわせになるお話（アートと地域の事例紹介等）

②成功させるための具体的な知識（事業実施に欠かせない資金調達や告知）※講師を別途依頼

（2 日目）

③やりたいことを形にする企画書づくりのお話 ※講師を別途依頼

④企画書を書いてみよう（グループワーク）

⑤発表と講評



◆成果

1. 定員（30 名）のところ 29 名の応募があり、九州には珍しい雪の影響がある中 27 名の参加者を得た。参加者はいずれも熱心で講師への質問、相談も順番待ちが発生するほどであった。
2. 長崎県北地域では学ぶ機会がないアートマネジメントや芸術を通じた地域活性化に関する知識を提供する機会が創出できた。
3. アイスブレイクやグループワークを通じて参加者同士が交流し、自発的に名刺交換を行い、講座終了後も話し込むなど、今後の活動につながるネットワーク形成を促進できた。
4. 財団職員にとっての研修の機会にもなり、業務の質の向上に貢献できた。



講座の様子



交流のためのアイスブレイクも担当
 地元ケーブル TV の取材を受けました。

◆テーマ 市民公開講座 リカレント講座「但馬ストークアカデミー」

◆実施主体 地域リサーチ&イノベーションセンター

◆キーワード リカレント教育（学び直し）

◆概要

本講座は、但馬地域の企業人材を対象に、リカレント教育受講の場を提供することにより、最新のマネジメント動向の習得や、異業種のネットワーク構築により、但馬の成長基盤となる産業界の活性化に寄与することを目的として実施する。

◆事業内容

- ・IT・DX: Google Workspace を用いた DX 推進（入門編）（講師：藤本悠 准教授）
- ・経営戦略: チームのビジョンと組織文化-イケてるビジョン、イケてないビジョン-（講師：小畑克典 准教授）
- ・人的資源管理: 人的資源管理入門（講師：瓶内栄作 准教授）
- ・コミュニケーション: 職場で活かせるコミュニケーション能力（講師：小畑克典 准教授、田上豊 助教）

◆成果

開講講座数：4 講座

受講者数：延べ 77 名（複数講座を受講された方を含む）

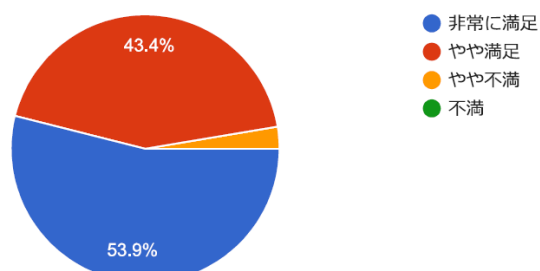
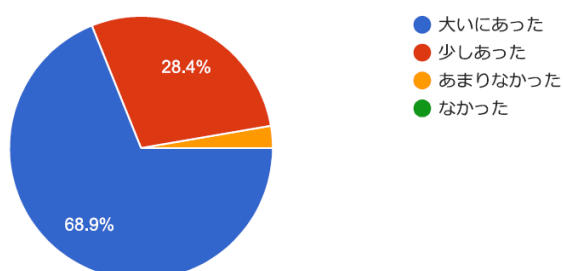
◆受講後のアンケート結果

・講座を受講されて、新たな気付きはありましたか？

大いにあった: 68.9% 少しあった: 28.4%

・講座の満足度を教えてください。

非常に満足: 53.9% やや満足: 43.4%



◆テーマ **市民公開講座「CAT 教養講座」**

◆実施主体 地域リサーチ&イノベーションセンター

◆キーワード 教養 生涯学習

◆実施内容

①第4回「これから使える！中国語入門」

日時：令和6年6月14日(金)、令和6年6月21日(金)、令和6年7月5日(金)

場所：芸術文化観光専門職大学

講師：姚 瑶（芸術文化観光専門職大学 講師）

内容：演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップを交えて、中国語の基礎～サービス業で役立つフレーズを楽しく学ぶ。

受講：6名

②第5回「10倍楽しむ、豊岡演劇祭!!」

日時：令和6年8月3日（土）

場所：芸術文化観光専門職大学

講師：加藤 奈紬（豊岡演劇祭プロデューサー）

河村 竜也（芸術文化観光専門職大学 助教）

内容：観劇が初めての方、楽しみたい方に向けて、豊岡演劇祭 2024 のプログラムの魅力や見どころ、演劇、ダンス、大道芸など、多様な舞台芸術作品の楽しみ方を解説。

受講：24名

③第6回「カブトムシ・クワガタ昆虫教室 2024」

日時：令和6年8月24日（土）

場所：芸術文化観光専門職大学

講師：塩川 太郎（芸術文化観光専門職大学 教授）

内容：標本づくりのワークショップ、世界のカブトムシ・クワガタの鑑賞、採集・飼育方法を学ぶことのできる、小学生向けの夏休み企画。

受講：13名

④第7回「はじめてのコンテンポラリーダンス」

日時：令和7年3月1日（土）

場所：芸術文化観光専門職大学

講師：児玉 北斗（芸術文化観光専門職大学 講師）

深澤 南土実（芸術文化観光専門職大学 講師）

内容：ダンス的手法を通じた、コミュニケーションの身体的側面に意識を向けるワークショップ。立つ・歩くといった基本的な動作からはじめて、話す・聞く時の身振りや、触れる・触れられる感覚を経由し、やがてコンテンポラリーダンスを踊る身体へと展開する、身体コミュニケーションの入門部分の体験。

受講：8名



◆テーマ シリーズ「パフォーミング・ライブラリー」

◆実施主体 学術情報センター

◆キーワード 図書館、パフォーミング・アーツ、ワークショップ、アーカイブ

◆概要

学術情報館は、いつもは静かに読書し勉学に励む場であるとともに、時にパフォームする＝演じる図書館でありたいと考える。館に蓄積されている知や情報、階段状に吹き抜けた建築的構造などを活用し、学生、教職員、市民が思い思いのパフォーミング・アーツを繰り広げる。さらには、「図書館」、「本」、「言葉」自体が既存の形にとらわれずパフォーム＝演じることができるよう、利用者との新たな出会い方を演出するワークショップなどを企画する。

◆事業内容

1. 第9回（2024年11月9日）：語り継がれる踊り：黒沢美香とは誰だったのか？（図1）
2. 第10回（2024年3月8日）：創造的アーカイブの可能性～但馬×創造×デジタル技術～（図2）

◆成果

1. 第9回：日本のダンス界に絶大な影響を残しつつも未だ研究が進んでいない舞踊家の故・黒沢美香に関して、その芸術活動と密接な関係にあった関係者にそれぞれの視点から語り継いでいただいた。そこではアーティストとしての黒沢氏の思想や生きざまを含めて、映像に残りにくいダンスという芸術のアーカイブや継承に関する議論にも及び、今後の研究の先鞭をつけた。
2. 第10回：香美町教育委員会の石松氏、兵庫県デジタル戦略課の林氏、SONYの八木氏らを招いて、地域資源の保存と活用にデジタル技術をどのように活かすことができるかを議論し、地域資源の利活用においては「感情を刺激すること」が重要であるという共通認識を得ることができた。ワークショップでは、参加者らとスマートフォンによる三次元計測、生成AIを用いた物語構築、Locatoneのコンテンツ体験などを行い、参加者らからは好評であった。

参加者数

第9回：21名

第10回：13名



図1 第9回「語り継がれる踊り：黒沢美香とは誰だったのか？」



図2 第10回「創造的アーカイブ」の可能性でのワークショップの様子

◆事業名 CAT 舞台芸術実習公演

INTERN
SUPPORT
CENTER

Performing Arts Project (PAP) vol.5

◆担当教員 講師 石井 路子、講師 山内 健司、准教授 尾西 教彰、准教授 杉山 至、
講師 近藤 のぞみ、講師 河村 竜也、助教 田上 豊

◆キーワード 演劇 公演

◆概要

「CAT 舞台芸術実習公演」は、芸術文化観光専門職大学(CAT)が授業の一環として取り組む舞台芸術作品の公演事業。第一線で活躍する国内外のアーティストが携わり、学生と共に演劇やダンスなどの舞台作品を創作している。令和6年度は、PAPvol.5として上演を実施した。

◆公演概要

作品タイトル『イワンのばか』

原作：レフ・トルストイ 翻訳：北御門二郎

台本・演出：永山智行（劇団こぶく劇場 代表）

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学 学生

会場：芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター

期間：2024.12.14[土]－21[土]

全6回／入場者数：約 550 名



■行政・団体・企業等との連携協定

2022 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
JA たじま	芸術文化観光専門職大学と たじま農業協同組合における 産学連携協力の推進に係る協定	但馬地域内における観光と農（食）の 更なる連携を促進し、産学連携による地 域活性化を図る。	2022.10.21
宝塚市	宝塚市と芸術文化観光専門職大 学との包括連携協定	芸術文化及び観光を生かした地域活性 化に資する取組や人材育成により、宝塚 市域の持続的な成長及び市民サービスの 向上を図る。	2023.3.24

2021 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
豊岡市 (株)EXx	豊岡市における電動キックボード実 証実験に関する連携協定	(株)EXx の電動キックボードサービスによる 二次交通の利便性向上に向けた実証 実験を実施。	2021.6.3
KDDI(株)	芸術文化観光専門職大学と KDDI 株式会社との包括的連携 に関する協定	5G 基地局を本学に開局。教育環境の 充実や芸術観光分野における共同研究 を促進。	2021.7.21
全但バス(株)	芸術文化観光専門職大学と全但 バスにおける連携協力の推進に係 る協定	新たな観光資源の開発や路線バスの利 活用、地域人材の育成など、地域課題 の解決や地域創生を図る。	2021.10.15
(株)但馬銀行	芸術文化観光専門職大学と 但馬銀行における産学連携協力の 推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域課 題の解決や地域の新規事業創出・起業 支援などを推進。	2021.11.15
但馬信用金 庫	芸術文化観光専門職大学と 但馬信用金庫銀行における産学 連携協力の推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域社 会や地域経済の維持・発展、相互の資 源を活かした交流を推進。	2021.11.15
兵庫県商工 会連合会	芸術文化観光専門職大学と 兵庫県商工会連合会における事 業連携に関する協定	相互の教育研究活動の推進による人材 育成、県下商工会における経営改善普 及事業・地域振興事業の推進、地域中 小企業の発展と地域経済活性化を促 進。	2021.12.3
豊岡商工会 議所	芸術文化観光専門職大学と 豊岡商工会議所の連携協力協 定	地域産業の振興、中心市街地活性 化、人材育成、学術研究・広報などの 分野での相互の人的・知的資源の交流 や活用を促進。	2021.12.16



2022 年度 たじま農業協同組合との連携協力協定

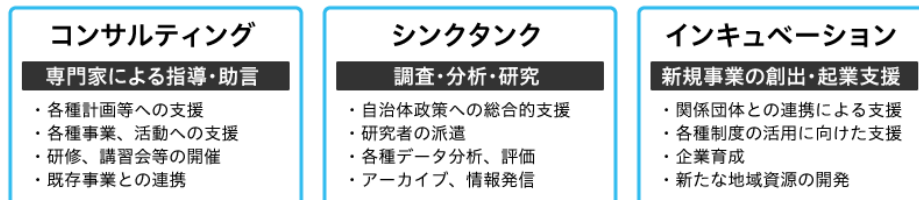


2022 年度 宝塚市との連携協力協定

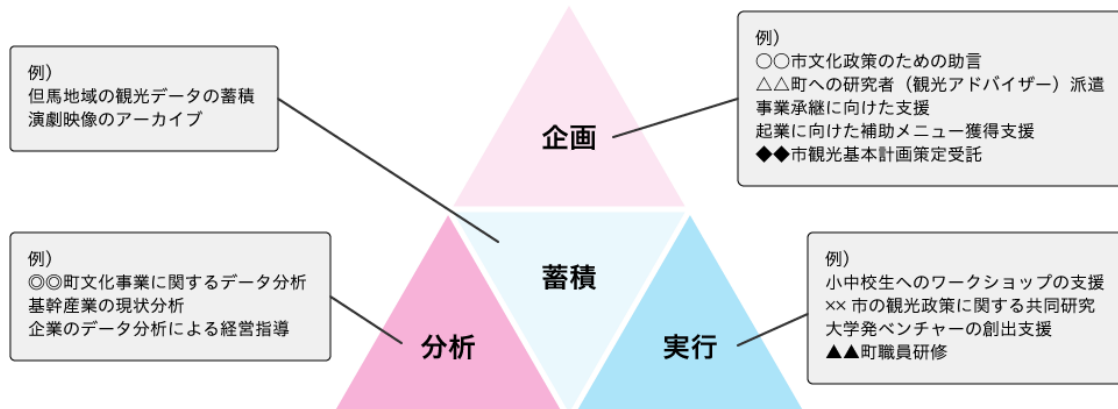
地域リサーチ&イノベーションセンターについて

2021 年に開学した芸術文化観光専門職大学では、地域連携の推進拠点として「地域リサーチ&イノベーションセンター」（略称：RIC「リック」）を設立しました。RIC は、地域と大学をつなぐ窓口となり、地域課題の解決を通じて地域と大学を進化させることを目的としています。

【地域リサーチ&イノベーションセンターの3つの機能】



【各フェーズにおけるプロジェクト】



◆ お問い合わせ・産学官連携申し込み

芸術文化観光専門職大学

・地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC） ・地域協働課

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町 7-52
 電話 0796-34-8123（代表）、34-8162（RIC ダイヤルイン）
 URL <https://www.at-hyogo.jp/>
 Mail cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp



プロジェクションマッピングと生演奏音楽を取り入れた演劇作品「わすれなぐさ」再演事業



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism